

## 夏休みを回顧する



校長の出身高校は、川崎の川崎区渡田山王町にある神奈川県立川崎高等学校です。この川崎高校の定時制課程を、昭和53年(1978年)3月に卒業しています。私は小学校、中学校時の成績は芳しくなく、鶴見中学校の3年当時の担任に、保護者面談で「田中には、いく学校がない」と言われたことを、いまでも鮮明に覚えています。そこで仕方なく昼間、働くことになったのですが、当時は高度経済成長期であり、就職する中学生は「金の卵」と称されるくらい企業側の採用意欲も高く、多くの中学校卒業生は工場や病院、役所、商店、デパート等、様々な仕事場で正社員として働いていました。そのなかには、定時制高校に進学する者も少なくありませんでした。私も勤務先で上司の人たちから高校へ進学することを勧められ、定時制高校に通うことにしました。当時の定時制高校生は昼間正社員として働き、夜学校で学ぶ人が大半でした。

定時制高校に進学してみたものの、朝早く起き、仕事した後に勉強することは精神的にも、身体的も辛かった記憶があります。その定時制で一人の恩師に出会い、その恩師の影響を受け、教員を目指すようになりました。その恩師は当時、40歳代前半で教頭を務めていました。その教頭先生が、どのような理由か分かりませんが、私たちのクラスの世界史を担当していました。その恩師との出会いによって、中学時には進学する学校はないという生徒だったのに、大学を目指すようになったのですから、教師の影響力は計り知れないと思いました。大学を目指すようになって受験勉強をする必要に迫られてから、時間を有効に使えるようになったと思います。

普段、昼間は働き、夜は通学していたので夏休みは格別な時間でした。夏休みは、定時制の授業はなかったのですが、図書室は開いていたので通っていました。図書室で勉強するのが毎日の日課になっていました。図書室は4階建ての校舎の最上階にあり、羽田空港が近いせいもあり飛行機の灯や、川崎のコンビナートの灯りを見ながら勉強したのを覚えています。

教頭先生の世界史のテストは、教科書、参考書、ノートなど、何を持ち込んでも良いという形式でした。そのため最初のテストでは、ほとんど勉強もせずに受験しました。一桁の点数しか取れず、悔しくて世界史を勉強するようになりました。毎日、放課後、図書室の世界史事典(20巻ぐらい)の前に、席を陣取りゴシック文字の人名、戦争名、事柄など、一つひとつ調べたことを、教科書の余白に小さな字で記しました。教科書に年月日、人名などが記されていたので、5W1HのなかでWHYとHOWが大切だと感じとるようになりました。世界史や日本史が暗記科目で嫌いだったのに、事柄を理解することによって好きになっていきました。

夏休みに仕事を終えて学校の図書室に行って調べることが、自らの世界観を広げてくれたような気がします。きっと、夏の夜空に夢を描いていたと思います。

### 7月31日の全校集会における校長の話！

生徒の皆さん、こんにちは！ 校長の田中です。今回はコロナウイルス感染防止のため、放送での全校集会になりました。

2月27日、安倍首相の休校要請から3ヶ月間休校となりました。6月1日に学校が再開されましたが段階的な再開となり、7月13日に時差通学による通常登校となりました。いま生徒たちの声が聞こえ、笑顔の見える学校になり、少しずつ日常の学校生活を取り戻してきています。しかしながら、最近の日本全国の感染者数は増え続け、いつ緊急事態宣言が発せられてもおかしくない状況です。いまや職場内、学校内の感染が増え、さらに家庭内感染も増えています。昼休みや下校時に放送で流しているように「マスクを外しての会話」は厳禁です。いまや自分の身は、自分で守る必要があります。ウイルスと闘っていても、見えないウイルスは忍び寄ってきます。一国の首相や大統領、健康管理に気を使っている一流スポーツ選手でさえ感染しています。皆さんもくれぐれも健康管理には努めてください。

校長も30年間教員生活を送っていますが、今回のような事態は初めての体験です。いままで、2009年の豚インフルエンザで修学旅行の団長として高熱を発する生徒の対応、2011年の東日本大地震での対応、2019年の台風15号時に学校に泊まったの対応などを経験してきました。今回は初めての体験ですが、いままでの経験を活かしながら対応しています。

今年度は体育祭、文化祭も中止になり、部活動では全国大会、予選、地方大会も中止になったものが多かったと思います。この1年は通常の高校生活を送れず、残念な気持ち、悔しい思いを持った生徒は少なからずいると思います。コロナと闘い、コロナと共生する社会、先が見えず、不安や焦りを感じ、自分で切り開けない、コントロールできず、フラストレーションや挫折感を味わった生徒は少なくないと思います。長くて暗いトンネルのなか、自ら道標(目標)を決め、少しでも光の見える方に歩むだけです。無理せず光明のある方に歩くのです。そして生きて行くことが、いつか「令和2年は、凄い年だったなあ…」と振り返ることができるのだと思います。

最後に、今週は「ともに生きる社会かながわ推進週間」です。いまから4年前、平成28年7月26日、津久井やまゆり園で19人死亡、27人負傷という大変痛ましい事件が起こりました。この事件を受け、本県では「ともに生きる社会かながわ憲章」が制定されました。本県のホームページに記されていますので、是非、一度見てください。私たちは人々の人権を尊重し、共生社会をつくり、共に支え合って生きていかななくてはなりません。例えば、街中で困っている人がいたら「何かお困りでしょうか」と声を掛けてみてください。先日、学校にある方からお電話をいただきました。その内容は、本校生徒が自分の子どもが泣いているので声を掛けてくれ、子どもが落したものを一緒に探してくれ、自宅まで子どもを連れてきてくれたことへの感謝のお電話でした。このように清陵高校は、これからも地域や県民の人たちにも信頼、愛される学校であり続けましょう。

明日から短い夏休みです。本来、夏休みは日頃、体験できないことを体験することができる日々です。今年はコロナ禍ですので、なかなか遠くに行くこともできないと思います。3週間後に、皆さんの元気な顔を見ることができるとを願っています。以上